

生徒を引率中(指導中)に経験したヒヤリ・ハット事例集 (装備)

独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所

※ この事例集は、平成29年度に開催した高等学校等安全登山指導者研修会の事前課題で研修生の皆さんから収集したヒヤリ・ハットの主な

キーワード	事例	対応、その他
用器具扱い	通年で、生徒が素手で火器を使用しているケース、不安定な状態でコンロに鍋を設置し、炊事を行っているケースが見られる(特に年度当初の4月や5月の大会で多い)。	過去には、県体育大会で、豪雨の中テント内で炊事中、熱湯の入った鍋がコンロから落下し、炊事中の男子生徒が大火傷(入院1カ月)を負ったことがある。以来、火器の扱いの指導は徹底するようにしており、今後も行動のたびに注意喚起を行っている。 炊事審査の項目に、火器の取り扱いを必ず組み込み、安全で安心な状態を作り出したうえで、生活技術としてしっかり火器の取り扱いを行える技能を身に付けさせる。
用器具扱い	テント撤収中、ザックの上に置いておいた袋に詰めたフライシートが転がり、谷底へ落ちていった。	回収を試みたが、発見できず、この後の行動は無理として、下山した。
用器具扱い	部としてほぼ初めてのテント泊の際に間違ったポールを当日持ってきた。	いびつな形になったが宿泊自体は可能だった。風が強かったり、雨天時には対応が難しかった。
用器具扱い	安全環付きカラビナを使うべき場所で、普通のカラビナを使っていた。(沢登り)	すぐに安全環付きカラビナに交換。 その後の対応として、滝ごとに、毎回登りだす前に、顧問が確認するようにした。
用器具扱い	生徒が湯を沸かし始めたところ、突然破裂音がして、周辺に破片が飛び散った。ガスボンベは破裂し、バーナーは破損した。	警察と小屋の人がすぐに駆けつけてきてくれた。その場に人はほとんどいなかったが、念のため周囲に呼びかけをした。幸いけが人はいなかった。何らかの原因でボンベが火に近づきすぎたと思われる。
用器具扱い	新入部員がまだ個人装備を購入前に、父親(以前に登山をしていたとのこと)の靴を借りて入山。靴は古く、劣化しており、歩いているうちに両足ともソールが剥がれて歩行不能に。	テーピングテープでぐるぐる巻き。細引きも巻き付けて、少しでも滑りにくくする工夫。
用器具扱い	12月下旬、1人の生徒のオーバージャケットが破れて、それが強風にあおられてちぎれ飛んだ。その上、グローブも片方飛ばされた。	オーバージャケットは経年劣化した借り物で、その生地が低温下でもろくなって破れたらしい。さらに慌てて防寒具をザックから出そうとしてグローブを外したときにリーシュコードを付けていなかったために飛ばされた。私の予備グローブを貸し、急遽下山した。
用器具扱い	はしごを登っているときに、飲み物のペットボトルがザックから落ちてしまい、下にいる人にあたりそうになった。	荷物はできるだけザックの中に入れるように指導した。ザックにぶら下げたりするのもできるだけさせないようにした。
用器具扱い	道幅の狭い岩場の通過時にザックの側面があたり、バランスを崩した。	ザックの外には装備を付けてはいなかったが、ザックの外に装備を付けないことの確認と、障害物があるときはザック周辺にも気を配るよう指示と声かけをした。
用器具扱い	ストーブのプレヒート不足で炎が50cmほど上がった。テント内であれば、テントを失うところであった。	ストーブの特性を十分熟知できるよう事前指導が必要。プレヒート、点火の手順はテント内で行わないこと。
用器具扱い	灯油ストーブ用の灯油入れに飲料水用のポリタンクを使っていた。間違えて水をいれたまま山行を行い、灯油ストーブが使えなかった(普段、灯油をいれていたのに、水をいれても匂いは灯油であった)。	同じ容器を使っていたので新入部員は飲料水を入れるのか、灯油を入れるのか判断がつかなかった。容器を変えるか、大きく表記するなどの工夫が必要である。
用器具扱い	夏、テント設営中に、2本のポールのX字接合部が破損。設営不可となった。	天気が良かったので、屋外で野宿にした。
用器具扱い	冬合宿中、テント内で朝食調理中にバーナーの火に異常が生じた。	酸欠を疑い、テントのベンチレータと出入り口を開けたところ、火は正常化した。
装備確認	懸垂下降しようとしたら、エイト環が外れていることに気が付いた。	バックアップをしていたので落ち着いてエイト環をかけなおした。
装備確認	忘れ物(テントのポール、昼食など)	テントに関しては人数配置を変えた。昼食忘れは、多めに行動食や非常食を持っていたので対応できた。どちらも体温維持やカロリー摂取などに関わり、登山に欠かすことのできないものなのでまさにヒヤリとした。
装備確認	夏合宿で寝袋を持って行くのを忘れていた生徒がいたことを、事後に知った。	夏とはいえ、テント場の夜や朝方は冷え込むので寝袋や防寒着は忘れないように十分確認するように指導した。 万が一、忘れた場合には顧問と相談させ、気温などによっては山小屋に宿泊させるなどの対応をとりたい。
装備確認	9月上旬、1泊2日の山行を実施した。1日目の行程を終え、山小屋に到着したところ、生徒の1人がレインウエアを忘れたことが判明した。	2日目は小雨の予報で気温も低く、風速7~8mの風が吹くことが予想されたことから、山小屋から上部に進む予定を取りやめ、2日目の早朝に全員で速やかに下山した。